

# 「農業とわたしたちの暮らし」寄贈

島根県農業協同組合  
雲南地区本部から「農業とわたしたちの暮らし」70冊の寄贈を受けました。

3/25 水

本には、給食に使われている食材がどこで、どのように生産されているのかが分かります。源副本部長は「子どもたちに中山間地域の農業への理解を深めてもらいたい。また農業に限らず、自分が育った地域に誇りを持ってもらえるきっかけになれば嬉しいです」と話していました。

■問合せ  
教育委員会 電話76・3944



吾郷統括支店長(左)と源副本部長(中)

# 集落実態調査成果報告会 町内7地区がこれからの暮らしのあり方を語る

赤名農村環境改善センターで「集落実態調査成果報告会」が開催されました。

3/12 木

前半は、7地区(花栗、上区、町区、下赤名、野萱、下赤名、上赤名)が集落の10年後の理想像やこれからの課題、自慢などを発表。参加者が地域の現状などを語り、改めて地域のあり方を考える機会になっていました。



下赤名地区の良いところを時間いっぱい話した岡田博文さん



参加者は、藤山さんのデータに基づく説明に聴き入っていました

後半は、(社)持続可能な地域社会総合研究所長の藤山浩さんが「田園回帰の時代、飯南に人と仕事をとりもどす」と題して講演。藤山さんは「困っているから帰ってきてほしいではなく、魅力的な地域だから帰ってきたいと思わせることが大切」と話していました。

## 飯南ラボ成果報告会

# 飯南町における世帯継承と集落維持に関する地理的研究

3/8 日

町と島根大学の共同研究室「飯南ラボ(ふるさと回想館内)」の成果報告会が開催されました。

報告したのは、小田真木地区に10日間滞在しながら研究を重ねた本田亮太さん(島根大学4年)。

本田さんは「世帯と集落には相互作用があり、積極的に活動している集落は、世帯継承される傾向にある。また集落外に住んでいる出身者が帰郷するときの判断基準の一つとして、集落活動の有無が挙げられます」と報告しました。



約40人が本田さんの発表に耳を傾けていました

飯南ラボは、平成30年7月に開設。飯南町の魅力と可能性を研究し、大学生と住民の交流の場にもなっています。

# まちを元気に！地域おこし協力隊

飯南町内のさまざまな地域課題の解決に取り組む「地域おこし協力隊」の隊員を紹介します。

「地域おこし協力隊」は、地域外の人材を受け入れ、最長で3年間、地域の課題解決に取り組みながら、隊員本人のその後の定住定着を図る制度です。

飯南町では、これまでに28人の隊員が町内各地で活動してきました。4月から新たに2人の新隊員を迎え、合計6人の隊員が活動中です。

# 眞栄グループが「美味しまねゴールド」取得

3/27 金

「安全でおいしい」を兼ね備えた産品を生産する生産者・生産方法を島根県知事が認証する「美味しまねゴールド(美味しまね認証上位基準)」を(農)眞栄グループが取得しました。(米で取得)

代表理事の伊達弘文さんは「肥料・農薬の使用や作業の安全確保など、生産工程の管理は大変ですが『安心・安全』な米づくりに取り組んでいきたい。今からがスタート」と話していました。



飯南町で2番目の取得



加集 淳子  
〈地域振興課〉  
宇山地区での加工品開発、交流活動



栃木 健吾  
〈地域振興課〉  
志津見地区での加工品開発、交流活動



渡邊 彩子  
〈教育委員会〉新任  
飯南高校でのキャリア教育支援、生徒募集



古賀 崇真子  
〈産業振興課〉新任  
大しめなわ創作館での創作活動、PR活動



林 正知  
〈産業振興課〉  
大しめなわ創作館での創作活動、PR活動



山本 かおり  
〈地域振興課〉  
国道54号沿線の活性化対策



赤来中学校前の道路を駆け抜ける

# 春の全国交通安全運動

4/6 月

4/15 水

春の全国交通安全運動に合わせ、町内各所で交通安全啓発活動が行われました。

6日には、赤来ライオンズクラブ・森島建設(株)が「交通安全パレード」を実施。赤来地域の道路を、交通安全ののぼり旗を取り付けた軽トラで走りながら、安全運転を呼びかけました。

赤来ライオンズクラブの安部和昭さんは「小さな子どもたちの動きは、特に予測が付きません。だからこそ運転者には『かもしれない運転』が必要です。この運動が安全運転を心がける機会になれば」と話していました。